

## 人口動態調査から見えること

市では毎年、人口動態調査の結果を公表しています。4月1日現在の一宮市の人口は38万4706人となり、豊橋市(38万4431人)をわずかに上回り、県内で名古屋市(224万9315人)、豊田市(42万2865人)に次いで第3位となりました。豊橋市の人口を上回るのも、県内第3位というのも初めてのことです。

豊橋市は自動車関連の工場などが多く立地しており、外国の方もたくさん住んでいます。経済状況の悪化により豊橋市の外国人の人口が微減に転じ、その影響で全体の人口の伸びも鈍化しました。一方、一宮市は他市町からの転入等により人口が増加しているため、このような結果になったのではないかと考えています。

17年からの4年間で、一宮市の人口は約7500人増加しました。この内訳は、転入・転出者数の差による増(社会増)が65%、出生・死亡者数の差による増(自然増)が35%となっています。

ここ数年の市内への転入者数は年間1万1000人、1万2000人に上ります。年齢層では20歳～39歳の若い年齢層が最も多く、60%以上を占めています。それに伴い0歳～9歳の年齢層も増加しています。小さなお子さんがいる若い夫婦の転入が人口増の原動力となっていることがうかがえます。人口増加について、ここ3年間ほど

を連区別で見ると、丹陽町連区が最も多く、次いで木曾川町連区となっています。人口の伸び率の視点で見ると、宮西・大志連区などの一宮駅周辺地域と丹陽町連区が高くなっています。一方、浅井町・北方町・萩原町連区は、わずかではあります人口が減少しています。

人口が大きく増加した連区、減少した連区を20年の出生率(人口1000人に対する年間の出生者数)と重ねて見ると、人口が増加した連区は出生率が高く、逆に減少した連区は出生率が低いという傾向があります。

高齢化率(総人口に対する65歳以上の人口の割合)においても、人口が増加している丹陽町連区では高齢化率が14.7%と低く、人口が減少している萩原町連区では高齢化率が24.3%と高くなっています。全市平均では20.5%です。

国が発表している人口の将来推計によると、日本の総人口はすでに減少傾向にあります。一宮市においては国よりやや遅く、第6次一宮市総合計画における将来人口推計では、22年ごろをピークに減少に転じるものと予測されています。

人口減少の要因を探ってみますと、やはり少子化という問題に直面します。20年の一宮市の出生率は9.5人で、全国平均の8.7人を上回るものの、

10年前の出生率の10.5人と比較すると1.0人減少しています。その大きな要因として晩婚化があげられます。昨年中に一宮市に婚姻届を提出した方の平均年齢は、男性32.3歳、女性29.8歳で、こちらも10年前の全国平均の男性30.2歳、女性27.9歳と比較すると、男女とも2歳ほど晩婚化が進んでいることが分かります。

今のところ一宮市の人口は増加傾向にありますが、近い将来、人口が減少し、急激に高齢化が進むことが見込まれています。人口減少と少子・高齢化は市民生活や市政運営に大きな影響を与えます。そのことを十分に踏まえた上で、若い世代が安心して子どもを産み育てることができ、お年寄りが心身ともに健康で自立した生活ができる環境の実現に、さらに努めてまいります。

